



～文化遺産を訪ねて歩こう!!～

4月号から来年3月号までの上尾歴史散歩は、『あげお歴史探検マップ』をもとに、市内の文化遺産を訪ね歩く市内の散策コースを紹介します。7～9月は、平方・大石地区周辺のコースを巡ります。

太田氏房印判状



4月 今に伝わる祈りの文化

5月 6月 荒川周辺に花開いた文化

7月 8月 人と文化が繋いだ町

9月 10月 11月 12月 街道に刻まれた歴史

1月 2月 3月

距離	時間
⑥地蔵像板石塔婆 木造阿弥陀如来立像	1.23km ↓ 14分
⑦大 悲 庵	2.26km ↓ 27分
⑧天神氷川八幡神社	3.49km ↓ 41分
⑨徳 星 寺	1.24km ↓ 14分
自然学習館 ゴール	

★時間は、歩いたときの目安の所要時間です

荒川周辺に花開いた文化
～河岸場と民俗芸能をめぐるコース～

緑あふれる景観と民俗芸能を訪ねて

畔吉の「地蔵像板石塔婆」と「木造阿弥陀如来立像」⑥を後にして、東武バスの車庫の前を抜け、大石南小学校前の通りに入る。突き当たりを右に折れてしばらく進むと、小高い台地上に「大悲庵」⑦があり、その一角には、室町時代に建てられた市指定文化財の「月待供養塔」という板碑がある。「特定の月齢の日に集まって月が出るのを待つ」という民間信仰に関連して建てられたものである。

大悲庵からさらに北へ向かい、藤波地区の鎮守である「天神氷川八幡社」⑧に進む。ここは「藤波のささら獅子舞」「藤波の餅つき踊り」という二つの市指定無形民俗文化財が上演される舞台となっている。「藤波のささら獅子舞」は、雌獅子・中獅子・雄獅子の三匹の獅子と、幸領(猿若)と呼ばれる先導役が舞う獅子舞で、毎年10月上旬に行われる秋祭りで行われる。「藤波の餅つき踊り」は、主に四人一組で演じられ、実際に餅をつきながら踊る「餅つき」や、空の臼の周りで複雑な動きを演じる「曲つき」がある。かつては七五三の祝いなどで披露される民俗芸能であったが、現在では元旦や催し物の際に上演されている。

藤波地区を後にして、再び荒川の方へと向かう。領家工業団地を抜け、上尾道路を越えた所にある領家農村センターの敷地内には「領家大山石灯籠(市指定文化財)」がある。大山石灯籠は、大山阿夫利神社(神奈川県伊勢原市)の山開きに合わせて「灯籠立て」が行われる行事で、豊作や出世の願いが込められているとされる。現在では地域の伝統行事として、7月下旬から8月中旬にかけて市内19カ所で行われ、石灯籠や組立式の灯籠が四隅を竹と注連縄で囲われている光景が見られる。

最後に、「徳星寺」⑨へと向かう。ここには、市内最古の古文書、岩付城主太田氏房の印判状がある。天正17(1589)年に書かれたもので、氏房が支配領域内の神社を手厚く保護していたことを示すものである。徳星寺から「諏訪神社」⑤へ向かい、南側へ進むと、今回の「荒川周辺に花開いた文化」を巡るコースのゴール、自然学習館に着く。

次号では、舞台を大きく東に移し、「人と文化が繋いだ町」をテーマに原市地区を巡ろう。

(上尾市生涯学習課)